

久留米大学を受診した患者さんへ

「細菌検査データと DPC データを用いた菌血症のリスク分析」の研究に使用するデータについて

この研究では、久留米大学を受診し、手術・検査の際に採取し保存されている以下の電子データを使用します。

- 1) 期間：2012（平成 24）年 1 月から 2016（平成 28）年 5 月
- 2) 受診科：血液培養が行われた受診科
- 3) 対象疾患名：菌血症
- 4) 使用する電子データ：血液培養結果、DPC EF（診療行為）及び様式 1（退院時サマリ）

あなたの試料を今後の医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申し上げます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。ご了承くださいませよう、お願い申し上げます。

- 1) 研究組織：所属：臨床検査部

研究代表者：臨床検査技師 宮本直樹

研究分担者：国立感染症研究所細菌第二部 主任研究官 矢原耕史

2) 研究の意義と目的：黄色ブドウ球菌が血液に混入した菌血症の治療について、ガイドライン通りの治療がどれだけ現場で行われているのか、またガイドライン通りの治療を行った場合に患者予後を実際にどれだけ改善できているのか、データを解析しどのような処置が予後リスクを低減できるかを分析します。

3) 研究の方法：匿名化した血液の細菌検査データと DPC（診療行為および退院サマリ）データを、共同研究機関にて統計解析を行います。

4) 研究期間：平成 26 年 6 月倫理委員会承認後～平成 31 年 3 月 31 日

5) 上記のデータの使用を選定した理由：上記のデータの統合的使用は、本研究の意義と目的を達成する上で、現時点で最も効果的な方法と言えます。

6) プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について：データは匿名化されており、個人が特定されることはありません。人権と倫理に配慮して、データの解析を行います。

7) 研究成果の発表の方法：本研究の成果は、学会発表および論文として発表致します。

8) 利益相反：本研究は特定企業からの資金援助はありません

9) 事務局、問い合わせ、連絡先：

宮本直樹（臨床検査部、臨床検査技師）久留米市旭町 67 番地 0942-35-3311(内線 5445)